

# 外国文化がやってきた

1853(嘉永6)年、アメリカからペリーが来航したのをきっかけに、日本は開国にふみきった。すると、外国文化や技術がどんどん入ってくるようになり、中央区にもたくさんの西洋風の建物が建てられた。

## <外国様式の建物>

長期にわたって商売をする外国人のために、住まいが必要となった。中央区にも現在の明石町に外国人専用の住まいがたくさん建てられた。これを「築地外国人居住地」という。外国人が日本人の家を借りて住んだり、土地を借りて自分で家を建てたりした。商人のほか、宣教師、教師、医師などもやってきたため、教会や学校も多く建てられた。

### ●教会

キリスト教を広めに来た宣教師がたくさん日本にやってきて教会を建てた。中央区にも多くの教会が建てられたが、現在はほとんど残っていない。



教会内に残る鐘。



**カトリック築地教会** (A)  
1923(大正12)年に起きた関東大震災(→p.106)で焼けたため、1927(昭和2)年に再建され、今も明石町に残っている。

### ●アメリカ公使館

日本との交渉や日本に住むアメリカ人のため、いろいろな手続きなどをする役所。1875(明治8)年、居留地内につくられた。現在は、アメリカ大使館として港区にある。



### ●学校



**A 六番女学校** (C)  
居留地内で最初にできた女学校で、今は女子学院として千代田区にある。設立者のジュリア・カロザースは、学校の敷地内に住んでいた。

ジュリア・カロザース (1845~1914)

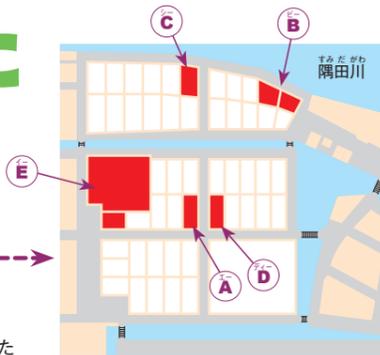


これはアメリカ公使館の前にあった石標だよ。今の聖路加看護大学の前に3つあるよ。

宣教師がキリスト教を広めようと、塾を開いたのがはじまり。熱心な教師たちによって、生徒が増え、だんだんと大きくなって学校となった。写真のほか、海岸女学校(現・青山学院大学)、東京一致神学校(現・明治学院大学)など、東京にあるキリスト教系の学校はここがはじまりのものが多い。



**立教大学** (D)  
1882(明治15)年から12年間、この地にあった。



完成した居留地の区画



現在の同じ場所(明石町)

### ●築地ホテル館

横浜開港にともない、江戸をおとずれた外国人の宿泊や商談の場として築地ホテル館が建てられた。1868(明治元)年ごろに完成したが、経営不振だった。その後、銀座の大火(→p.74)で焼けてしまった。



ホテル内のようす。宿泊客の食事風景。

今このホテルあととは築地中央卸売市場の駐車場なんだって。



《東京築地鉄砲洲景》にえがかれた、1869(明治2)年ころのようす。

### ●住まい

開市(→p.68)と同時にやってきた外国の商人、教師、宣教師、医師、料理人などがこの地に住んだ。下の写真はドイツからきた商人オスカル・ヘーレンが住んだ家。



### ●ヘーレンの住まい

ここは元村上藩の大名屋敷で、ヘーレンがそのまま住んだ。上の写真は正門で、下は母屋と日本庭園。

## そのほかの居留地

築地のほか、長崎、神戸、横浜、箱館(現・北海道函館)、新潟に居留地が置かれた。いずれも海の近くの土地が選ばれ、どの地にも外国文化が入ってきた。



神戸居留地(兵庫庫)。

横浜居留地(神奈川県)のメインストリート(左下)と港(右下)。

